

「ブロックテクターB型（BT-B）取扱説明書」

この度は、ブロックテクターをご採用頂きありがとうございます。この取扱説明書は、ブロックテクターの機能が効果的に発揮されるよう、正しく施工して頂く為のものです。よくお読み頂き、目的を理解した上で施工して下さい。また施工中も注意点を確認しながら行って下さい。

1. ブロックテクターB型（BT-B）製品仕様



510mm×510mm×h 70mm（±3.0）

製品名：グリーンブロック（GB）

特徴：10t車未満用基盤材
客土の締め固まり軽減
排水性、平坦性を形成



517mm×517mm×h 16mm（±3.0）

製品名：グリーントクター（GT）

特徴：芝生保護や離散を軽減
平坦性、柔軟性を形成



製品名：ブロックテクターB型（BT-B）

特徴：連結は、植生基盤GBで行います

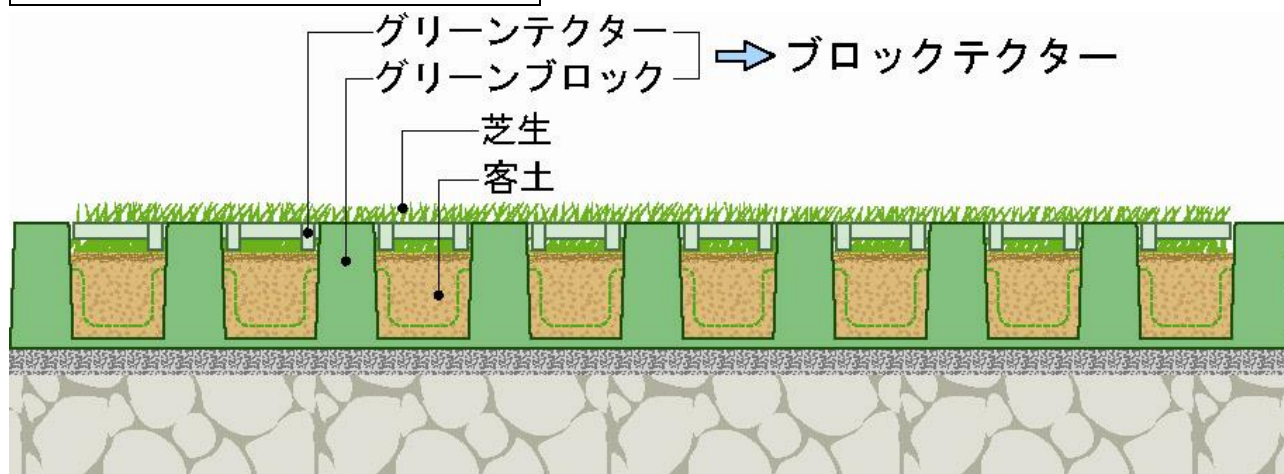
補植等の管理に於いてGTを1枚から取り外し可能です

設計時は、植生基盤GBの寸法から、1㎡4枚となります

補足

本文では、グリーンブロックをGB、グリーントクターをGT
ブロックテクターB型をBT-Bと表記する場合があります

2. 標準施工断面 (BT-B)

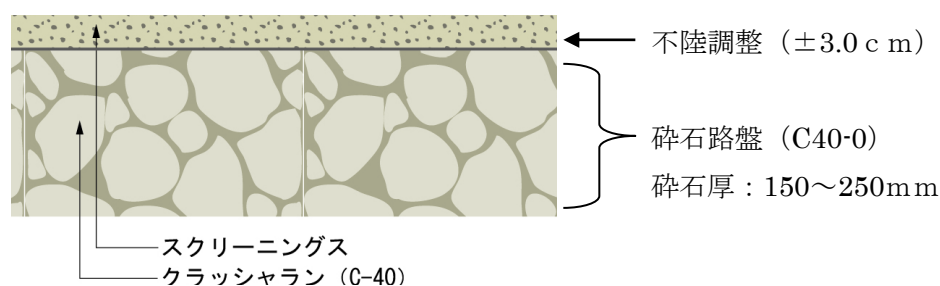


3. グリーンブロック (GB) 施工手順

(1) 路盤 (不陸調整±30mm)

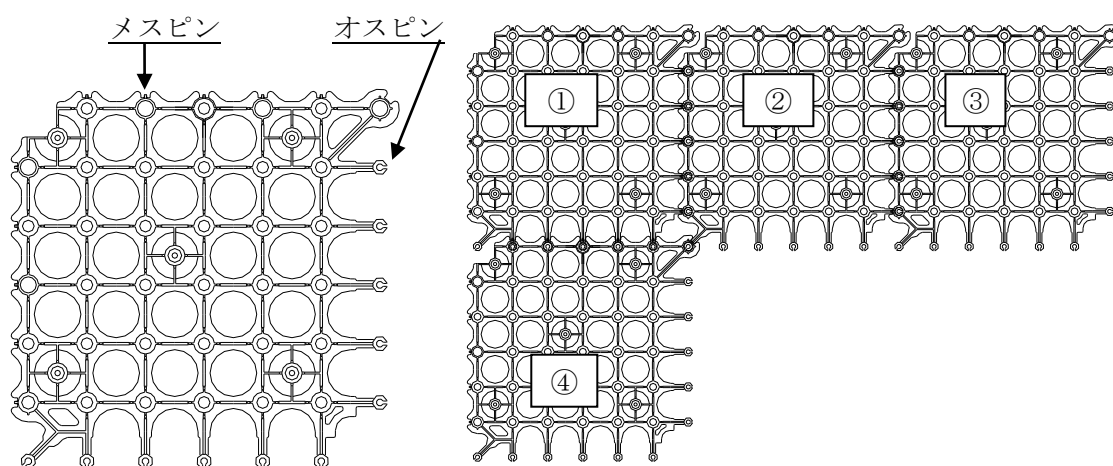
路盤の不陸は、排水層及び仕上面の不陸や沈下の原因となりますのでご注意ください
全体の排水勾配には気を付けて下さい

1) 標準施工断面



- (注1) 不陸調整材は、スクリーニングス (砕石ダスト等) をお薦めします
インターロッキング舗装等で用いられるサンドクッション (砂) 等は、
地盤に流れ込み不陸や沈下の原因になります
- (注2) 不陸調整幅 (±30mm) が小さい程、不陸や沈下の発生を抑制出来ます
- (注3) 水捌けの悪い箇所では暗渠等を設置することが望ましいですが、
不可能な場合は、砕石で排水溝を形成して下さい
- (注4) 路盤砕石の厚み (目安) は、150mm~250mmとして下さい
- (注5) 軟弱地盤等は、地耐力・N値などを考慮願います

(2) グリーンブロック (GB) の敷設 (オス型ピンの上にメス型ピンをのせ、嵌合する)



GB形状

敷設手順

(注1) 設置始めは、施工範囲の一番長い辺の左上隅から行って下さい

(注2) 基準となる直線を正確に出して下さい

(施工途中の曲がり矯正は広くなるほど困難になります)

(注3) 嵌合は右横方向へ並べていくと、

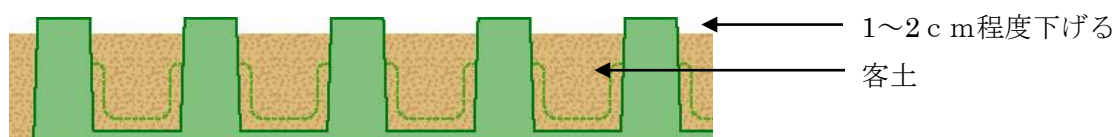
常にオス型ピンの上からメス型ピンを重ねる事ができます

(注4) カット加工は、電動マルノコ等で簡単にできます

(3) グリーンブロック (GB) の上から良質土を客土し、竹箒等で掃き均します

1) GBの頭部から1~2cm程度 (芝生厚が目安) 低く整地します

芝生保護を目的とする本工法の最も重要な点ですから十分配慮して下さい



(注1) 客土を充填し過ぎると、使用経過と共に客土硬度が上がり、
芝生の成長に影響を及ぼします

(注2) 客土が少なすぎると、ブロック頭部が露出し歩行性が悪くなる上、
芝生の生長に影響を及ぼします

(注3) 砂質土を使用して下さい (粘土質の土は使用しないで下さい)

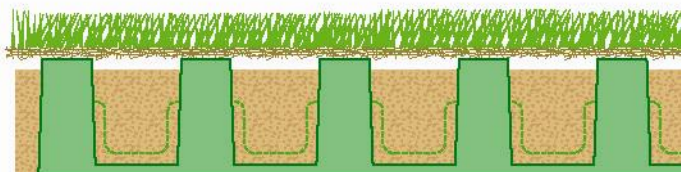
(注4) 客土に土壤改良剤を配合することをお勧めします

(注5) GBの上部を板などで養生して、客土を運んで下さい

施工効率の向上と製品の破損防止になります

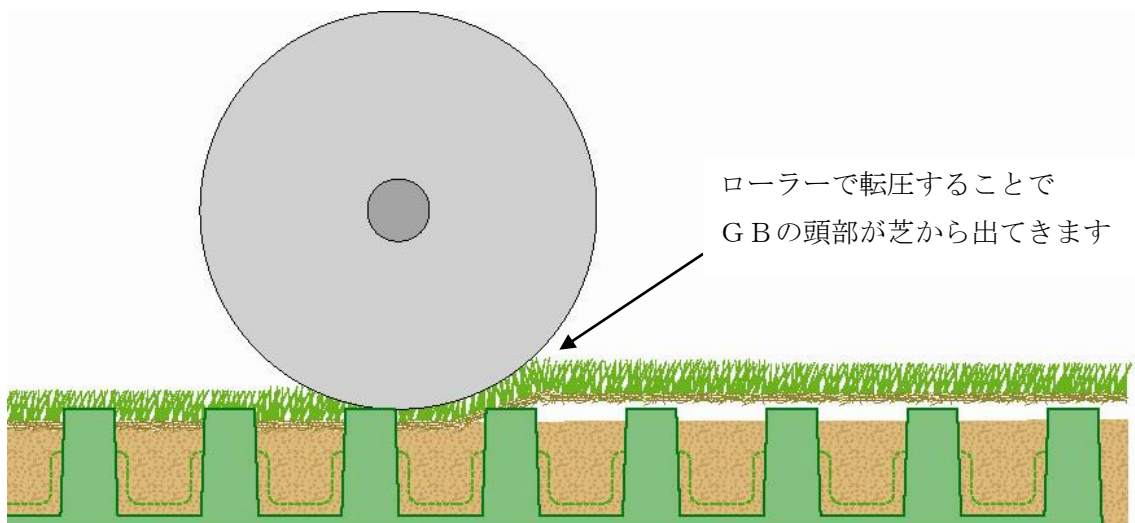
(4) 芝を貼り、転圧をします

1) 芝を貼って下さい



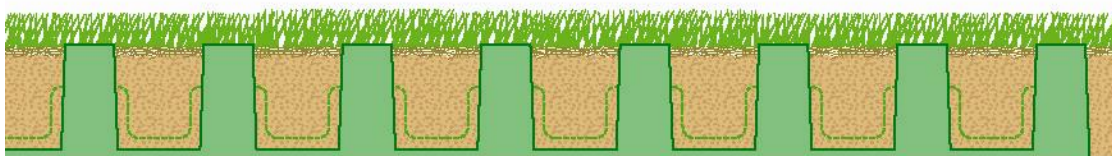
図の様な空隙が
芝生の下に出来ます

2) ローラーで転圧して、GBの突起を出して下さい



ローラーで転圧することで
GBの頭部が芝から出てきます

↓ 転圧後イメージ



(注1) 貼り芝の場合は大判100%貼りとします

(注2) 芝をGBの頭部がにじむ程度まで転圧し、押し込みます
十分な撒水をして、目土を落とさないと押し込みにくくなります
撒水して芝を柔らかくしながら転圧して下さい

(注3) 乗用ローラーを使用すると施工効率が上がります

(注4) ローラー使用時は、板などで養生してから乗入れて下さい

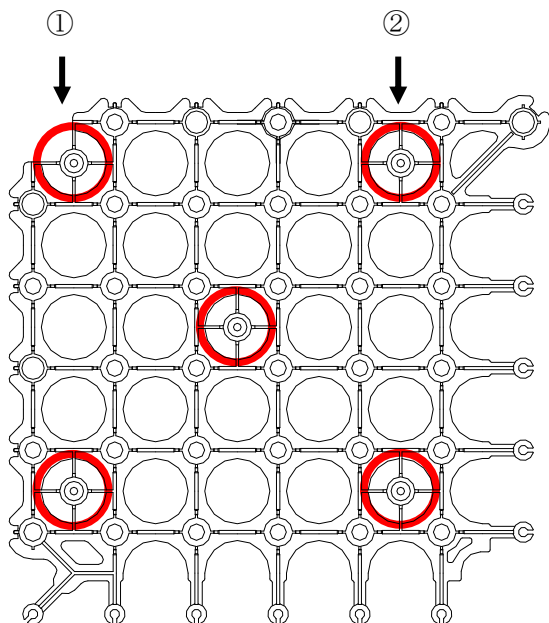
(注5) 転圧機を急反転で前進・後退を繰り返すと、効果的に押し込みます
ローラーをブロック頭部が支え、土が余り締め固まらない程度であることが重要です

4. グリーンテクター (GT) 施工手順

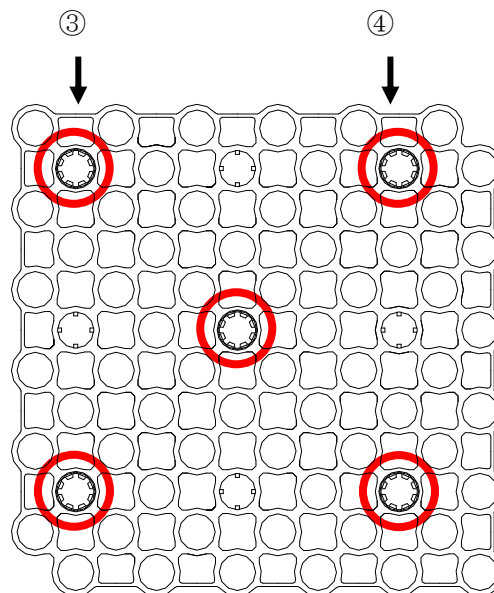
(1) GTとGBの嵌合について

1) グリーンブロックとグリーンテクターの嵌合位置 (太丸線内箇所)

①と③、②と④が嵌合し合う



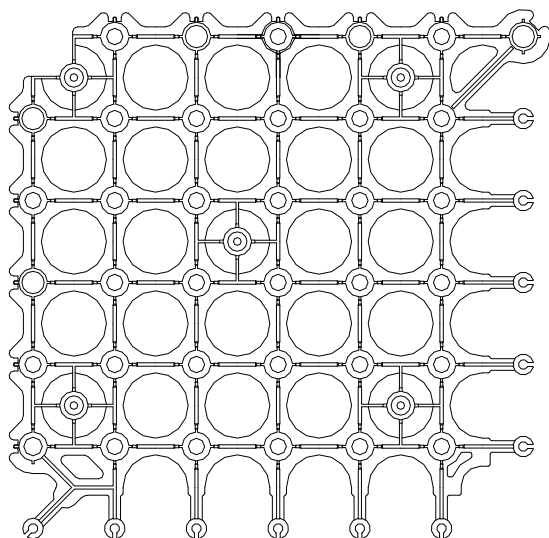
グリーンブロック



グリーンテクター

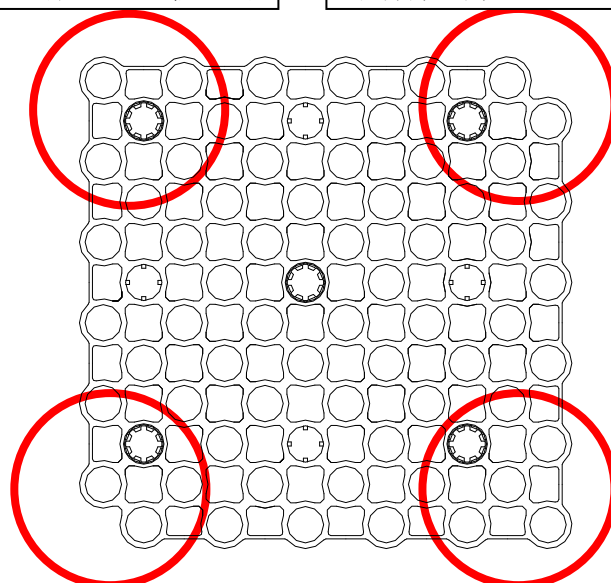
2) 嵌合する為の製品向き

- ① GBのメスピンの製品角 (GB敷設1枚目の方向) を基準として下さい
- ② GTとGBの嵌合箇所が、外周から1個内側に入った角を上記①と合わせる



嵌合部が外周から1個内側

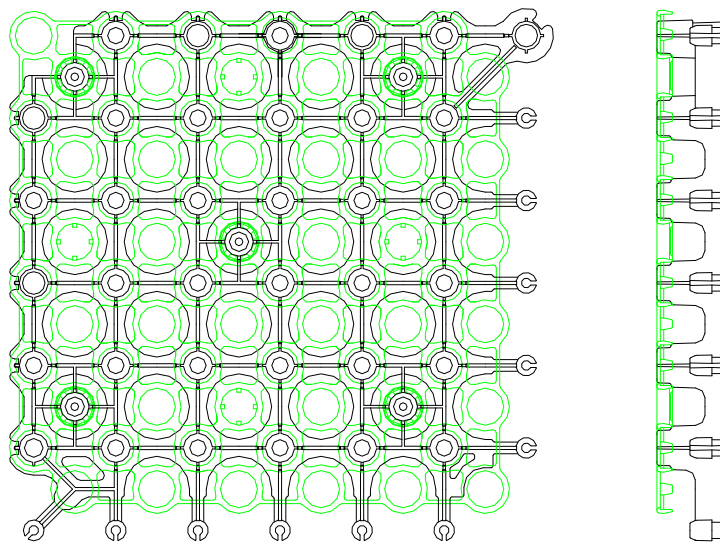
嵌合部が角からズレている



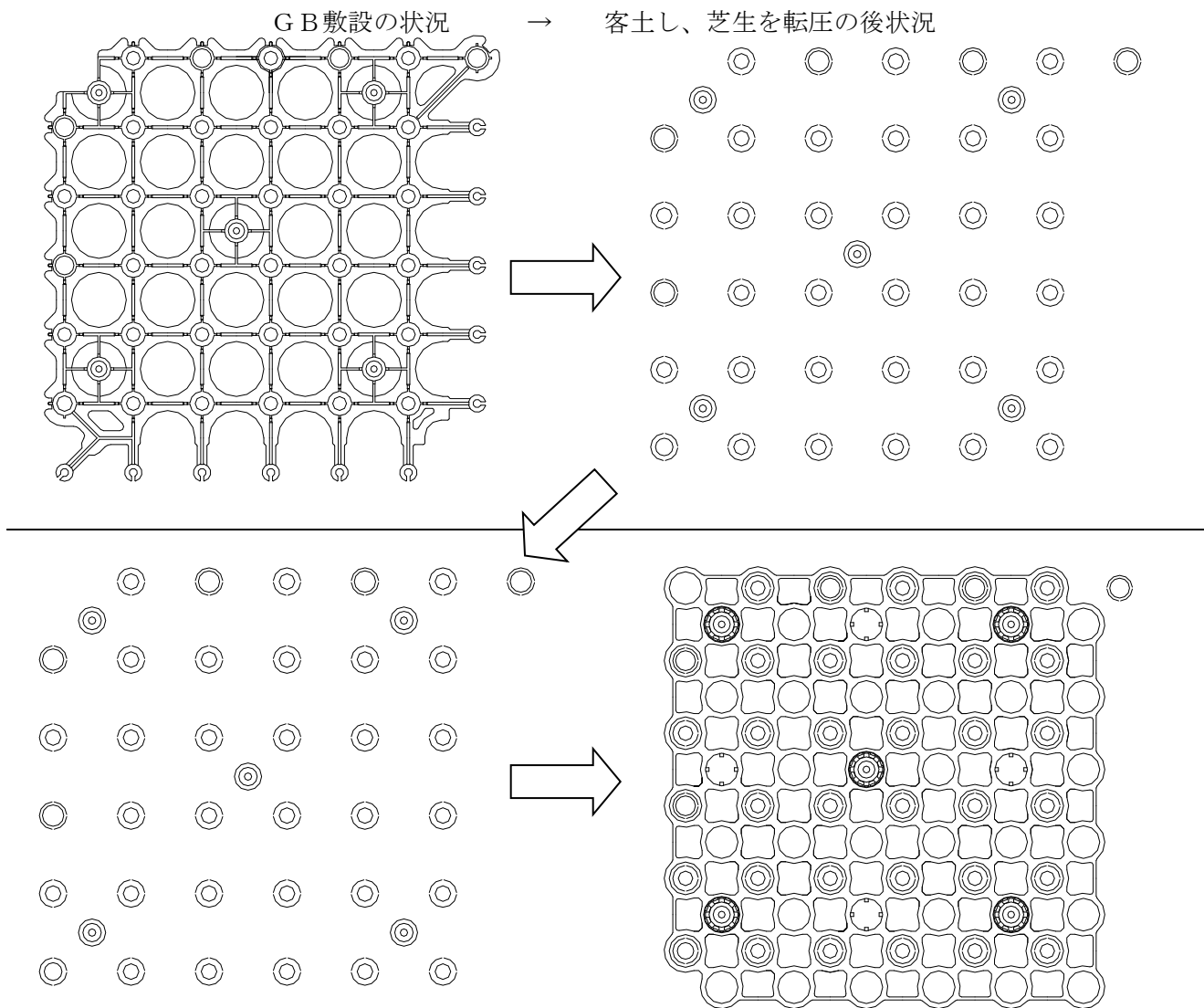
嵌合部が角からズレている

嵌合部が奥に入っている

3) 製品のみ嵌合 (平断面図)



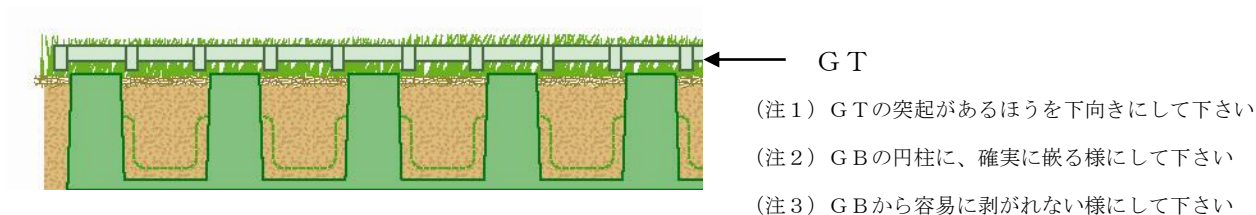
4) GBに客土が入っている場合



芝生を転圧後にGTを被せる

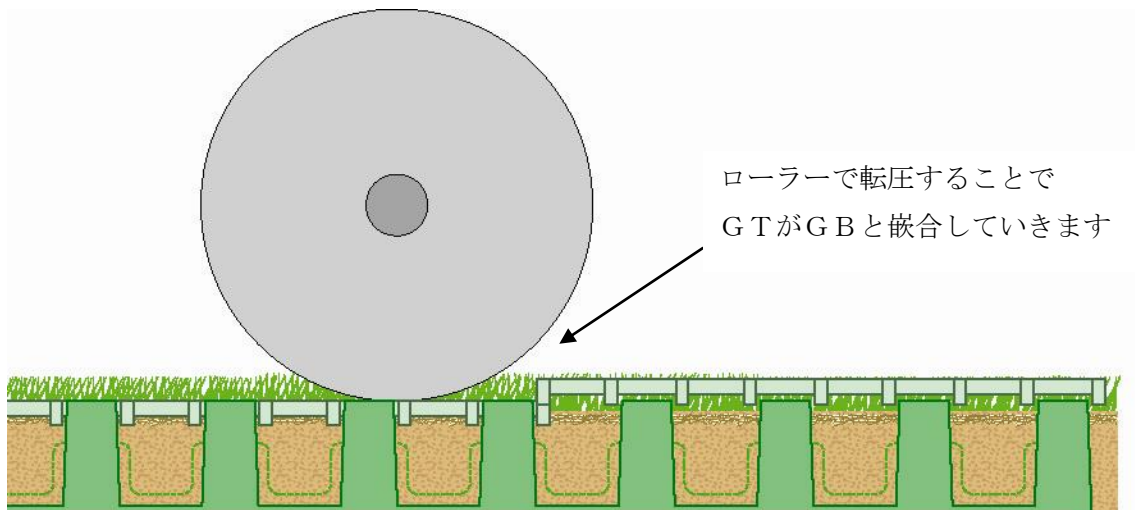
(2) GTを、GBの上から取り付けます

1) GBとGTを仮止めする



2) GTを仮止めしたら、ローラーで転圧してGBと確実に嵌合して下さい

(注1) ローラー転圧することで、全体の不陸を調整してください



5. 目土、撒水により完工

1) 目土、撒水を行う

(注1) 目土には、砂質系のものを使用して下さい

撒水で、芝の根(ターフ)に目土を落とさないと、不具合が生じます

(撒水が不十分の場合、蒸れる等芝生の成長に影響します)

(注2) 目土は、厚過ぎない様に気を付けて下さい

(注3) 目土をして、GTの表面が出るようにホウキやトンボで掃いて下さい

(注4) 十分に撒水して、目土を落として下さい

6. 維持管理

本工法は、芝生生長資材ではなく、芝生保護資材です

- (1) 施工直後、芝生の初期養生(灌水)は根が付くまでしっかり行って下さい(最も重要です)
- (2) 芝生には十分な日照を与えて下さい。芝刈りを行う際、茎切りにはご注意ください
- (3) 肥料を撒布して下さい
- (4) 車両の急発進や急停車、無理な切り回し、冷暖気運転など芝を痛めることは避けて下さい

7. その他

- (1) GB本体は、圧縮強度も十分に有りますが、アスコン舗装のようにそのものに支持力はありませんので、緊急時以外の重車両の乗り入れはご遠慮下さい
- (2) GB本体は、10t車未満の車両専用です